KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

新疆ウイグル自治区における雑技系芸能の分布と特色

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2017-04-01 キーワード (Ja): 雑技, 民俗芸能, ムカーム, 無形文化遺産 キーワード (En): 作成者: 鵜島, 三壽 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00007729

関西外国語大学 研究論集 第105号（2017年３月）
Journal of Inquiry and Research, No.105（March 2017）

新疆ウイグル自治区における雑技系芸能の分布と特色*

鵜　島　三　壽

要　旨

中国の新疆ウイグル自治区に伝承されるムカーム（muqum）は、中央ユーラシア最大の合奏音楽である。ムカームは、さまざまな楽曲によって構成される歌と踊の総称で、ユネスコの無形文化遺産になっている。ムカームの中にはいろいろな芸能が組み込まれているが、本稿では雑技系芸能に注目した。新疆ウイグル自治区における伝承芸能の実態を把握するため、ウイグルの民俗芸能を網羅する２冊の報告書により、まずは民族ごとの芸能の伝承数を調べ、次にその中から雑技系芸能を抜き出し、演目の違いや分布状況を調べた。さらに新疆ウイグル自治区に接する甘粛省や青海省、寧夏回族自治区の芸能状況と比較することによって、新疆ウイグル自治区で伝承される芸能は周辺の省や自治区よりも数が多いばかりでなく多種多様であり、伝承の中心はウイグル族であることも明らかになった。

キーワード：雑技、民俗芸能、ムカーム、無形文化遺産

はじめに

中国の新疆ウイグル自治区には、ムカームと呼ばれる伝統芸能が継承されている。ムカームとは、さまざまな楽曲によって構成される歌と踊の総称で、音楽や舞踊の形態、使用楽器の多様性が特徴である。楽器の種類は体鳴楽器・膜鳴楽器・弦鳴楽器・気鳴楽器など十数種に及ぶ。歌詞は、ウイグルの古典文学を用いた格調高いものから、民話や恋愛、日常生活を歌ったものまで、幅広い形式を持っている。ムカームは、中央ユーラシア最大の合奏音楽であり、2008年にはユネスコの無形文化遺産にも登録されている。

筆者は2006年以降、ムカームの現地調査に参加してきた。調査はムカームの１章すべてを演奏してもらい、それを収録するものであったが、音楽演奏の合間には、水を入れた碗を頭上に載せて水をこぼさないように踊る頂碗舞や、鶏の格好をして滑稽な所作を行う鶏舞などが組み込まれていた。これを実見して以来、ムカームの中に含まれる雑技系芸能に興味を抱いてきた。

本稿は、広大な新疆ウイグル自治区における雑技系芸能を調べ、演目の内容や民族間の相違などとともに、こうした芸能がどのように分布しているか把握することを目的とする。そのために、新疆ウイグル自治区の芸能を網羅する２冊の本から関連芸能を抽出して比較表を作成す

る。また一方で、新疆ウイグル自治区に接する甘粛省や青海省、甘粛省の東に位置する寧夏回族自治区の芸能状況と比較する。これにより、新疆ウイグル自治区における芸能文化の特徴をより明確にできると考えている。

1　雑技系芸能の定義

雑技とは、芸術性の高い声楽、器楽、舞楽ではなく、物真似、軽業、曲芸、奇術、幻術、人形戯など娯楽的要素の強い芸能を音楽伴奏で行うものである。その内容を具体的にいえば、重いものを持ち上げる力技、倒立、ジャグリング（お手玉）、呑刀、吐火、仮装動物戯、綱渡りなどが該当する。歴史的に見ると、こういう芸能を漢代には百戯といい、隋唐以降は散楽というようになったが、一方で雑伎とも呼称された。本稿では、これらに関連する芸能を雑技系芸能と呼ぶことにする。

雑技という言葉は、日本では中国雑技団とか上海雑技団というプロの雑技団が有名なため、雑技系芸能というとあのように高度なサーカス芸が行われているような誤解を生む可能性もある。ただ百戯や散楽では歴史的な側面が強調されるので、新疆ウイグル自治区における現行の芸能を扱うことから雑技という用語を使用した。

2　使用資料と雑技系芸能の抽出

⑴　使用資料

中国における民俗芸能の伝承状況を把握するには、中国民族民間舞踏集成編輯部による『中国民族民間舞踏集成』シリーズが有効である。これは省、自治区ごとに刊行されているが、市県別あるいは芸能別に報告されているので、当該の省のみならず、広大な中国全土での分布状況を知ることができる。そのため特定芸能の芸態の比較から、市県から省ごとの大きな単位での比較までできるので便利である。新疆ウイグル自治区については『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』として1998年に出版されている。

また、《中華舞踏志》編輯委員会により『中華舞踏志　新疆巻』も出版されている。これも先の『中国民族民間舞踏集成』と同様に中国全土でどのような民俗芸能が伝承されているかまとめたもので、新疆巻は2007年の刊行である。この２冊はウイグル族をはじめ、漢族、回族、カザフ族、モンゴル族など新疆ウイグル自治区に居住する各民族の芸能の伝承状況も把握することができる。この２冊は出版年が９年あいているが、『中国民族民間舞踏集成』の作成後、伝承状況にどのような変化があったか、その間の変遷もたどることのできる可能性がある。

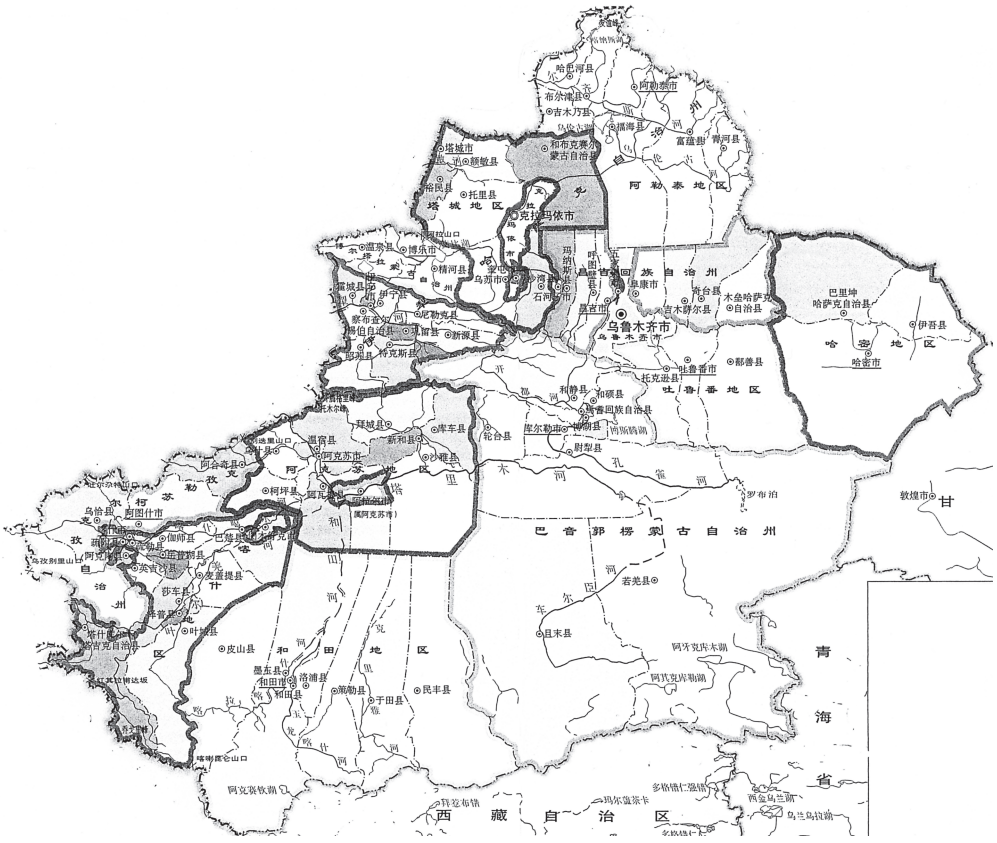

図１　新疆ウイグル自治区全図

いっぽう、２冊の報告書とも書名には「舞踏」という用語をもちいている。その内容をみると各地域で伝承されてきた芸能をさしている。これは日本でいえば民俗芸能[1]だが、舞踏といえば社交ダンスや西洋の舞踏、あるいは暗黒舞踏のように現代舞踏の流派を指したりする言葉でもあり、ここでは誤解を生む可能性がある。そのため、本稿では日本と同じように民俗芸能と記述することにした。

⑵　雑技系芸能の抽出

雑技とは冒頭に記したとおり、物真似、軽業、曲芸、奇術、幻術、人形戯など娯楽的要素の強い芸能のことである。新疆ウイグル自治区の現行芸能に照らし合わせると、鶏、虎、獅子のようなぬいぐるみをつけた仮装動物戯、頭上に茶碗などものをのせて踊るもの、足に棒をつけた高蹺などが中心となる。文字だけではわかりにくいものもあるので、その中のいくつかの芸能について、表１のとおり芸態をあげた。ただし表２に取り上げた芸能を網羅することはできないので10だけにした。なお油灯舞については、かつて詳細な報告をしている[2]。

芸能の名称だが、中国式表記と日本式表記では当然ながら違いがある。盤子舞は、日本風にいえば大皿踊であろうし、碟子舞は小皿踊、猴子舞は猿踊となろう。日本では舞と踊を区別して使い分けるが[3)]、本稿では原報告にしたがった。薩瑪瓦尓は中央ユーラシアに広く分布する茶器セットのサモアール（サモワール、サマワル）を漢語表記したものである。わかりやすいよう本稿ではサマワル舞と記述する。

表１　雑技系芸能の事例

芸能名	芸　　態
サマワル舞	頭上にサマワルをのせて踊る。
ダワル舞	手に数メートルの棒を持ち、綱渡りの様子を模擬的に演じる。
盤子舞	大皿を頭上や背中にのせて踊る。
頂碗舞	頭上に碗をのせて踊る。
油灯舞	油を入れた碗の縁にこよりを立て、それに点火し頭上にのせて踊る。
頂碗敲筷舞	頭上に碗をのせ、箸を鳴らしながら踊る。
頂瓜舞	頭上にスイカや瓜をのせて踊る。
鵝舞	ガチョウの格好をして踊る。
猴子舞	猿の格好をして踊る。
高蹺	両足に長い棒状のものをつけて歩く。日本の竹馬に相当する。

3　雑技系芸能の内容と分布

新疆ウイグル自治区における雑技系芸能の全容を把握するため、『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』の「全自治区民族民間舞踏調査表」と『中華舞踏志　新疆巻』の「新疆舞踏節目統計表」をもとに、写真や説明文を参照して該当する芸能を抜き出して表を作成した。

新疆ウイグル自治区の行政区分や地区名の表記は、『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』の記述にあわせた。そのため、その後県から市へ移行した烏蘇市のように現状とはことなっているものもある。

『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』の「全自治区民族民間舞踏調査表」は、まず民族名をあげてから伝承芸能の名称を記しているので、表２の上段には民族ごとの伝承芸能数をあげた。『中華舞踏志　新疆巻』の「新疆舞踏節目統計表」は、はじめに名称をあげ、次に流伝地区として吐魯番地区各県市などと記す。地域別ではなく芸能の演目別に記載しているため、地域ごとの違いや分布状況がたいへんわかりにくい。したがって、表２では『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』の方だけ民族ごとの伝承数を記すことにした。また『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』の欄の下段には、雑技系芸能の名称の後に括弧をつけて伝承する民族名を記した。

両方の報告書で使用される用語は基本的に同じであるが、油灯舞のようにことなるものもあった。『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』では油灯舞、『中華舞踏志　新疆巻』では頂油灯舞

とする。これは油灯舞でそろえたが、基本的に当該報告書で用いる芸能名をそのまま踏襲した。

該当する芸能を抽出するに当たり、仮装動物戯の認定に困った。例えばカザフ族の鷹舞は鷹の帽子をかぶるが、単に帽子をかぶっているだけか、あるいはかつて鷹の仮装をしていたが長い間に徐々に仮装が後退して帽子だけが象徴的に残ったのかなどは本に記述がないため、調査をしなければわからないからである。実際の芸能を見ずに掲載される写真や説明文だけで雑技系芸能を抽出するのは問題もあるが、全般的な傾向をつかむことが本稿の目的なので、除外するよりも可能性のあるものは入れることとした。

またダワル舞のように、実際は綱渡りをせずその所作を模擬的に演じるだけになっていても、報告書の説明から明らかに雑技との関連がうかがえるものはとりあげた[4)]。

表２　新疆ウイグル自治区の芸能と雑技系芸能一覧

地区名			芸能の伝承数と名称（『中国民族民間舞踏集成』）	芸能の名称（『中華舞踏史』）
烏魯木斉市	烏魯木斉市直轄各区		ウイグル族15、漢族６、カザフ族４、回族２、モンゴル族２、オロス族１、タタール族１、満族１、ダフール族１	頂碗舞、盤子舞、サマワル舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
			頂碗舞、盤子舞、サマワル舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
	烏魯木斉県		ウイグル族11、漢族６、カザフ族１、回族２、モンゴル族１、満族１	高蹺（漢族）
			盤子舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
克拉瑪依市			ウイグル族８、漢族６	頂碗舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
			盤子舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
石河子市			ウイグル族８、漢族６、カザフ族１	頂碗舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
			盤子舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
伊犁哈薩克自治州	伊犁地区	伊寧市	ウイグル族15、漢族５、カザフ族６、回族１、モンゴル族１、シボ族３、オロス族６、タタール族２、満族１	頂碗舞、サマワル舞、鶏舞、鵝舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）、鵝舞（カザフ族）
			頂碗舞、盤子舞、サマワル舞、鵝舞、鶏舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
		伊寧県	ウイグル族10、カザフ族６、回族１、満族１	頂碗舞、サマワル舞、駱駝舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）、鵝舞（カザフ族）
			頂碗舞、盤子舞、サマワル舞、駱駝舞、鹿舞（ウイグル族）	
		霍城県	ウイグル族９、漢族５、カザフ族５、回族１、シボ族10、オロス族５、ウズベク族７	頂碗舞、サマワル舞（ウイグル族）、鵝舞（カザフ族）
			頂碗舞、盤子舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
		尼勒克県	ウイグル族６、カザフ族７	鵝舞（カザフ族）、頂碗敲筷舞（モンゴル族）
			頂碗舞、盤子舞（ウイグル族）、鷹舞（カザフ族）	

地区名			芸能の伝承数と名称（『中国民族民間舞踏集成』）	芸能の名称（『中華舞踏史』）
伊犁哈薩克自治州	伊犁地区	昭蘇県	ウイグル族５、カザフ族６、モンゴル族３	鵝舞（カザフ族）、頂碗敲筷舞（モンゴル族）
			盤子舞（ウイグル族）	
		特克斯県	ウイグル族５、カザフ族８、キルギス族２、モンゴル族３、シボ族２	鵝舞（カザフ族）、頂碗敲筷舞（モンゴル族）
			盤子舞（ウイグル族）	
		鞏留県	ウイグル族６、カザフ族11、シボ族３	鵝舞（カザフ族）
			頂碗舞、盤子舞（ウイグル族）	
		新源県	ウイグル族５、カザフ族10、シボ族２	鵝舞（カザフ族）
			盤子舞（ウイグル族）、鷹舞（カザフ族）	
		察布査尓錫伯自治県	ウイグル族７、漢族３、カザフ族６、シボ族11、オロス族５	高蹺（漢族）、鵝舞（カザフ族）
			盤子舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）、鷹舞（カザフ族）	
	塔城地区	塔城市	ウイグル族５、漢族２、カザフ族６、シボ族２、オロス族２、ダフール族５	頂碗舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
			盤子舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）	
		額敏県	ウイグル族５、カザフ族６、キルギス族４	頂碗舞（ウイグル族）、頂碗敲筷舞（モンゴル族）
			盤子舞（ウイグル族）	
		裕民県	カザフ族７	
			鷹舞（カザフ族）	
		托里県	ウイグル族４、カザフ族７	
		烏蘇県	ウイグル族６、カザフ族８、モンゴル族１	頂碗舞（ウイグル族）
			盤子舞（ウイグル族）、青蛙舞、猴舞（カザフ族）	
		沙湾県	ウイグル族６、カザフ族６	頂碗舞（ウイグル族）
			盤子舞（ウイグル族）	
		和布克賽尓蒙古自治県	カザフ族１、モンゴル族４	
	阿勒泰地区	阿勒泰市	カザフ族16、モンゴル族１、オロス族２	頂碗敲筷舞（モンゴル族）
			鷹舞（カザフ族）	
		哈巴河県	カザフ族15、モンゴル族１	
			鷹舞、鵝舞、燕子舞、綿羊舞（カザフ族）	
		布尓津県	カザフ族14、モンゴル族１	
			鷹舞、鵝舞、燕子舞、綿羊舞（カザフ族）	
		吉木乃県	カザフ族７	
			鷹舞、鵝舞（カザフ族）	
		福海県	カザフ族５	
		富蘊県	カザフ族５	
		青河県	カザフ族４、モンゴル族３	
	奎屯市		漢族６、カザフ族３	高蹺（漢族）
			高蹺、獅子舞（漢族）	

地区名		芸能の伝承数と名称（『中国民族民間舞踏集成』）	芸能の名称（『中華舞踏史』）
博尔塔拉蒙古自治州	博楽市	ウイグル族１、漢族１、カザフ族１、モンゴル族６	頂碗敲筷舞（モンゴル族）
	精河県	ウイグル族１、漢族１、モンゴル族６	頂碗敲筷舞（モンゴル族）
	温泉県	カザフ族１、モンゴル族６	頂碗敲筷舞（モンゴル族）
昌吉回族自治州	昌吉市	ウイグル族１、漢族５、回族４	高蹺（漢族）、頂灯舞（回族）
		高蹺、獅子舞（漢族）	
	米泉県	漢族５、回族９	高蹺（漢族）
		高蹺、獅子舞（漢族）	
	瑪納斯県	漢族５、カザフ族４、回族２	高蹺（漢族）
		高蹺、獅子舞（漢族）、鷹舞（カザフ族）	
	呼図壁県	漢族５、カザフ族４、回族１	高蹺（漢族）
		高蹺、獅子舞（漢族）、鷹舞（カザフ族）	
	阜康市	漢族５、カザフ族４、回族６	高蹺（漢族）
		高蹺、獅子舞（漢族）、鷹舞（カザフ族）	
	吉木薩尔県	漢族５、カザフ族３、回族５、モンゴル族２	高蹺（漢族）
		高蹺、獅子舞（漢族）、鷹舞、熊舞（カザフ族）	
	奇台県	漢族５、回族４、ウズベク族１	高蹺（漢族）
		高蹺、獅子舞（漢族）	
	木垒哈薩克自治県	漢族２、カザフ族10、ウズベク族１	高蹺（漢族）
		高蹺（漢族）	
吐魯番地区	吐魯番市	ウイグル族12、回族１	頂碗舞、頂瓜舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
		頂碗舞、盤子舞、頂瓜舞（ウイグル族）	
	托克遜県	ウイグル族11	頂碗舞、頂瓜舞（ウイグル族）
		頂碗舞、盤子舞、頂瓜舞（ウイグル族）	
	鄯善県	ウイグル族11、回族１	頂碗舞、頂瓜舞（ウイグル族）
		頂碗舞、盤子舞、頂瓜舞（ウイグル族）	
哈密地区	哈密市	ウイグル族15、漢族５、カザフ族１、回族１	頂碗舞、油灯舞、頂瓜舞、駱駝舞、鵝舞、鶏舞、馬舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
		盤子舞、油灯舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
	伊吾県	ウイグル族12	頂碗舞、油灯舞、頂瓜舞、駱駝舞、鵝舞、鶏舞、馬舞（ウイグル族）
		盤子舞、油灯舞、駱駝舞、鵝舞、鶏舞（ウイグル族）	
	巴里坤哈薩克自治県	ウイグル族７、カザフ族６	
		盤子舞、油灯舞（ウイグル族）、鷹舞（カザフ族）	
巴音郭楞蒙古自治州	庫尔勒市	ウイグル族10、漢族５、回族１、モンゴル族８	頂碗舞、獅子舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）、頂碗敲筷舞（モンゴル族）
		頂碗舞、盤子舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
	和静県	ウイグル族５、モンゴル族４	頂碗敲筷舞（モンゴル族）
		盤子舞（ウイグル族）	

地区名		芸能の伝承数と名称（『中国民族民間舞踏集成』）	芸能の名称（『中華舞踏史』）
巴音郭楞蒙古自治州	和碩県	ウイグル族７、回族１、モンゴル族４	頂碗敲筷舞（モンゴル族）
		盤子舞（ウイグル族）	
	博湖県	モンゴル族３	頂碗敲筷舞（モンゴル族）
	輪台県	ウイグル族５	頂碗舞（ウイグル族）
	尉犁県	ウイグル族３	獅子舞（ウイグル族）
	若羌県	ウイグル族５	頂碗舞（ウイグル族）
		盤子舞（ウイグル族）	
	且末県	ウイグル族５	頂碗舞（ウイグル族）
		盤子舞（ウイグル族）	
	焉耆回族自治県	回族２、モンゴル族２	頂碗敲筷舞（モンゴル族）
		碟子舞（回族）	
阿克蘇地区	阿克蘇市	ウイグル族11、漢族４	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、変高矮舞、駱駝舞、馬舞、猴子舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
		盤子舞、サマワル舞、桌子舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
	温宿県	ウイグル族11、キルギス族４	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、（ウイグル族）
		頂碗舞、盤子舞、サマワル舞、桌子舞（ウイグル族）	
	拝城県	ウイグル族10、漢族４	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、（ウイグル族）、高蹺（漢族）
		盤子舞、サマワル舞、桌子舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
	庫車県	ウイグル族14、漢族４	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、羊舞、鵝舞、獅子舞、馬舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
		盤子舞、サマワル舞、桌子舞、山羊舞（ウイグル族）、高蹺、獅子舞（漢族）	
	新和県	ウイグル族11	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞（ウイグル族）
		盤子舞、サマワル舞、桌子舞（ウイグル族）	
	沙雅県	ウイグル族10	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞（ウイグル族）
		盤子舞、サマワル舞（ウイグル族）	
	烏什県	ウイグル族８、漢族２、キルギス族５	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
		盤子舞、サマワル舞、桌子舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）	
	阿瓦提県	ウイグル族11	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、高足、変高矮舞、駱駝舞、羊舞、馬舞、猴子舞（ウイグル族）
		サマワル舞、桌子舞（ウイグル族）	
	柯坪県	ウイグル族６	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞（ウイグル族）
		盤子舞、サマワル舞、桌子舞（ウイグル族）	
克孜勒蘇柯尓克孜自治州	阿図什市	ウイグル族13、キルギス族６	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞（ウイグル族）
		頂碗舞、盤子舞（ウイグル族）、馬舞（キルギス族）	
	阿合奇県	キルギス族８	
		馬舞、羊舞、駱駝舞（キルギス族）	

地区名		芸能の伝承数と名称（『中国民族民間舞踏集成』）	芸能の名称（『中華舞踏史』）
克孜勒蘇柯尓克孜自治州	烏恰県	キルギス族８ 馬舞（キルギス族）	
	阿克陶県	ウイグル族７、キルギス族５、タジク族２	頂碗舞（ウイグル族）
喀什地区	喀什市	ウイグル族14、漢族２ 頂碗舞、盤子舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、頂瓜舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
	疏附県	ウイグル族10 盤子舞、サマワル舞（ウイグル族）	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、頂瓜舞（ウイグル族）
	疏勒県	ウイグル族７、漢族２ 盤子舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、頂瓜舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
	巴楚県	ウイグル族12 盤子舞、サマワル舞（ウイグル族）	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、頂瓜舞（ウイグル族）
	伽師県	ウイグル族11 盤子舞、サマワル舞（ウイグル族）	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、頂瓜舞（ウイグル族）
	岳普湖県	ウイグル族７	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、頂瓜舞（ウイグル族）
	英吉沙県	ウイグル族７	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、頂瓜舞（ウイグル族）
	麦盖提県	ウイグル族６	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞、頂瓜舞（ウイグル族）
	莎車県	ウイグル族９、タジク族２ 盤子舞（ウイグル族）	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、高蹺、ダワル舞（ウイグル族）、馬舞（タジク族）
	沢普県	ウイグル族11、タジク族２ 頂碗舞、盤子舞（ウイグル族）	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、ダワル舞（ウイグル族）、馬舞（タジク族）
	葉城県	ウイグル族13、タジク族３ 油灯舞、頂碗舞、盤子舞（ウイグル族）	頂碗舞、油灯舞、盤子舞、サマワル舞、ダワル舞（ウイグル族）、馬舞、鷹舞（タジク族）
	塔什庫尓干塔吉克自治県	タジク族８ 馬舞、鵝舞、駱駝舞（タジク族）	頂碗舞、サマワル舞、盤子舞、高蹺、ダワル舞（ウイグル族）、馬舞、鷹舞（タジク族）
和田地区	和田市	ウイグル族15、漢族２ 頂碗舞、盤子舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）	頂碗舞、油灯舞、サマワル舞、高蹺、ダワル舞（ウイグル族）、高蹺（漢族）
	和田県	ウイグル族13 頂碗舞、盤子舞、獅子舞（ウイグル族）	頂碗舞、獅子舞、サマワル舞、高蹺、ダワル舞（ウイグル族）
	皮山県	ウイグル族11、キルギス族２、タジク族２ 頂碗舞、盤子舞（ウイグル族）	頂碗舞、サマワル舞、ダワル舞（ウイグル族）

地　区　名		芸能の伝承数と名称（『中国民族民間舞踏集成』）	芸能の名称（『中華舞踏史』）
和田地区	墨玉県	ウイグル族11	油灯舞、サマワル舞、ダワル舞、鵜舞（ウイグル族）、馬舞、鷹舞（タジク族）
		油灯舞、鵜舞（ウイグル族）	
	洛浦県	ウイグル族10	頂碗舞、油灯舞、サマワル舞、ダワル舞、鵜舞、羊舞、馬舞（ウイグル族）
		油灯舞、鵜舞（ウイグル族）	
	于田県	ウイグル族12	頂碗舞、サマワル舞、ダワル舞、鵜舞（ウイグル族）
		頂碗舞、鵜舞（ウイグル族）	
	策勒県	ウイグル族10	頂碗舞、サマワル舞、ダワル舞（ウイグル族）
		盤子舞、頂碗舞（ウイグル族）	
	民豊県	ウイグル族10	頂碗舞、サマワル舞、ダワル舞（ウイグル族）
		盤子舞（ウイグル族）	

表２から明らかなように、『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』の「全自治区民族民間舞踏調査表」に掲載される新疆ウイグル自治区の88市県のうち、ウイグル族の芸能については66市県から報告がある。『中華舞踏史　新疆巻』の「新疆舞踏節目統計表」では、ウイグル族の芸能について報告があるのは52市県である。ともに多くの市や県で雑技系芸能が行われており、『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』では頂碗舞21件、盤子舞50件、サマワル舞15件で、特に盤子舞が濃密に分布している。『中華舞踏史　新疆巻』では頂碗舞49件、サマワル舞34件、盤子舞23件、ダワル舞30件で、頂碗舞が最も多い。両方とも頭上にものをのせて踊る芸能が最も多く報告されている。

表２の大きな特徴は、新疆ウイグル自治区の民俗芸能を概観する２つの報告書で内容が重ならない、別の言い方をすると芸能の分布状況が大きくことなることである。したがって、記述のもととなった悉皆調査の方法や編集方針なども確認しておかねばならないのだが、詳しい経緯、悉皆調査の方法の記述がないのでわからないのは残念である[5)]。

かつて筆者が実見した頂碗舞は、ムカームの中に組み込まれていた。頂碗舞を単独でするものではないため、今回とりあげた２冊の報告書のもととなる悉皆調査の際、漏れる可能性が高いように思われる。

またもう１つ注意を要すべきことがある。1980年代から1990年代頃にかけて観光開発の一環として、ショーのため頂碗舞が演じられたことである[6)]。ショーとしての頂碗舞は今も行われているが、こうした芸能は報告書に入っているのか入っていないのか、統一した基準はあるのかが気になるところである。報告書には地域社会の中で営々と伝承されてきた芸能があげられているとは思うが、観光ショーのために行われている芸能がどのように扱われたのかにも注意が必要である。

表２では市県ごとの伝承数と芸能の名称をあげたが、これを別な角度でさらに検討してみたい。表３は『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』をもとに、自治州あるいは地域別、民族別に芸

能数をまとめたものである。こちらでは雑技系芸能の演目名ではなく民族別の伝承数をまとめた。

表３　民族ごとの芸能数と雑技系芸能数

		全　芸　能　数	雑技系芸能の数
烏魯木斉市、克拉瑪依市、石河子市		ウイグル族42、漢族24、カザフ族６、回族４、オロス族１、モンゴル族３、タタール族１、満族２、ダフール族１	ウイグル族６、漢族８
伊犁哈薩克自治州	伊犁地区	ウイグル族68、漢族13、カザフ族65、回族３、オロス族16、モンゴル族７、シボ族31、タタール族２、満族２、ウズベク族７、キルギス族２	ウイグル族20、漢族５、カザフ族３
	塔城地区	ウイグル族26、漢族２、カザフ族41、オロス族２、モンゴル族５、シボ族２、ダフール族５、キルギス族４	ウイグル族４、漢族１、カザフ族３
	阿勒泰地区	カザフ族66、オロス族２、モンゴル族６	カザフ族11
	奎屯市	漢族６、カザフ族３	漢族２
博尓塔拉蒙古自治州		ウイグル族２、漢族２、カザフ族２、モンゴル族18	
昌吉回族自治州		ウイグル族１、漢族37、回族31、カザフ族25、モンゴル族２、ウズベク族２	漢族15、カザフ族５
吐魯番地区		ウイグル族34、回族２	ウイグル族９
哈密地区		ウイグル族34、漢族５、回族１、カザフ族７	ウイグル族９、漢族２、カザフ族１
巴音郭楞蒙古自治州		ウイグル族40、漢族５、回族４、モンゴル族21	ウイグル族６、漢族３、回族１
阿克蘇地区		ウイグル族92、漢族14、キルギス族９	ウイグル族27、漢族９
克孜勒蘇柯尓克孜自治州		ウイグル族20、キルギス族27、タジク族２	ウイグル族２、キルギス族５
喀什地区		ウイグル族107、漢族４、タジク族15	ウイグル族15、漢族２、タジク族３
和田地区		ウイグル族92、漢族２、キルギス族２、タジク族２	ウイグル族16、漢族１
合　　計		ウイグル族558、漢族114、カザフ族215、オロス族21、モンゴル族62、シボ族33、ダフール族６、キルギス族44、回族45、タジク族19、ウズベク族９、満族４、タタール族３	ウイグル族114、漢族48、カザフ族23、回族１、キルギス族５、タジク族３

芸能の伝承数は、ウイグル族558を筆頭に、カザフ族215、漢族114、モンゴル族62、回族45、キルギス族44、シボ族33、オロス族21、タジク族19、ウズベク族９、ダワール族６、満族４、タタール族３である。新疆ウイグル自治区全体では1133、雑技系芸能は194となる。雑技系のうちウイグル族は114と最も多いが、これは次に多い漢族48の倍以上であり、カザフ族の５倍

にも達する。

新疆ウイグル自治区における雑技系芸能の分布状況をみると、地域的には南疆のカシュガル（喀什地区）、ホータン（和田地区）が最も多い。内容は頭上にものをのせておどる芸能と仮装動物戯が中心で、種類も豊富である。漢族の間で伝承される芸能はもっぱら高蹺と獅子舞であり、ウイグル族のように頭上にものをのせておどる芸能は報告されていない。カザフ族には青蛙舞、猴舞、鷹舞、燕子舞、綿羊舞、鵝舞があり、キルギス族は馬舞、羊舞、駱駝舞、タジク族には鷹舞と馬舞があるが、これらはすべて仮装動物戯である。ちなみに、カザフ族とキルギス族はウイグル族と同じトルコ系民族である。『中華舞踏志　新疆巻』では、モンゴル族が頂碗敲筷舞を伝承しているが、『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』にはそのような報告はない。頂碗敲筷舞は頭上に碗を載せて両手に箸を持ちその箸を鳴らす芸能だが、内容はウイグル族の頂碗舞と同じであるので注目しておきたい。

4　周辺の省、自治区の状況と検討結果

新疆ウイグル自治区の雑技系芸能の特徴をより鮮明にするため、隣接する甘粛省や青海省、甘粛省の隣の寧夏回族自治区の状況も確認しておこう。ただ紙幅の関係で地区および民族ごとの状況を概観するにとどめる。

⑴　甘粛省

甘粛省は新疆ウイグル自治区の東に隣接する省で、蘭州市が省府である。『中国民族民間舞踏集成　甘粛巻』により、地区名とそこに伝承される民俗芸能の数を調べ、雑技系芸能の数は括弧の中に記した。

蘭州市29（雑４）、天水市38（雑２）、白銀市31（雑２）、金昌市12（雑３）、嘉峪関市（雑なし）、慶陽地区67（雑４）、平涼地区41（雑３）、隴南地区54（雑３）、定西地区34（雑２）、武威地区21（雑３）、張掖地区28（雑４）、酒泉地区79（雑７）、臨夏回族自治州59（雑５）、甘南チベット族自治州79（雑５）で、これらを合計すると伝承芸能の総数は579、雑技系芸能は46となる。

民族別にみると、漢族423、チベット族84、回族27、カザフ族15、モンゴル族11、東郷族８、保安族５、裕固族４、土族１、撒拉族１である。雑技系芸能の伝承数は、漢族41、チベット族２、モンゴル族２、カザフ族１である。漢族が最も多いが、その内容は新疆ウイグル自治区の漢族とは違いがある。新疆ウイグル自治区の漢族には頭上にものをのせて踊る芸能がなかったが甘粛省にはあり、永昌県に頂碗舞、高台県に頂碗、民楽県に頂碗舞、臨澤県に灯舞、粛北モンゴル族自治区に頂碗舞、阿克塞哈薩克自治県に盤子舞が伝承される。これは今回取り上げた

省以外のところと比較しても甘粛省漢族の大きな特徴である。

なお『中華舞踏志　甘粛巻』は出版されていない。

⑵　青海省

青海省は新疆ウイグル自治区の東に位置し、省府は西寧市である。青海省の北に先ほどの甘粛省が位置している。『中国民族民間舞踏集成　青海巻』によると、海東地区130（漢族65、チベット族23、土族23、撒拉族14、回族５）で、このうち雑技系芸能は19あるが、すべて漢族である。海南チベット族自治区101（チベット族84、漢族17）で、雑技系はわずかに２で漢族の伝承である。海北チベット族自治州24（チベット族15、回族９）で雑技系はない。海西モンゴル族チベット族自治州９で雑技系はない。玉樹チベット族自治州193は、すべてチベット族である。黄南チベット族自治州55（チベット族54、土族１）、果洛チベット族自治州48、すべてチベット族である。これらを合計すると560だが、その内訳はチベット族426、漢族82、土族24、回族14、撒拉族14となる。雑技系芸能は21で、すべて漢族である。

青海省の芸能で注目すべきはタール寺に関するものである。タール寺は、チベット仏教ゲルク派の創始者ツォンカパの生誕地に建てられたもので、ゲルク派六大寺院の１つである。ここには法会に関する多くの芸能が伝承されているが、中でも特徴的なことは多くの演目が仮面をつけることである。いくつかの点で雑技系芸能とするかどうか困ったが、検討は別の機会に行うことにして今回は入れていない。

なお『中華舞踏志　青海省』は出版されていない。

⑶　寧夏回族自治区

甘粛省は東西に広いが、寧夏回族自治区はその東部の北側に位置しており、新疆ウイグル自治区とは接していない。区府は銀川市である。『中国民族民間舞踏集成　寧夏回族自治区巻』によると、銀川地区28（雑８）、銀北地区38（雑７）、銀南地区85（雑15）、固原地区66（雑12）で、合計すると217の芸能があり、うち雑技系芸能は42となる。民族別では回族３、満族２で、その中に雑技系芸能はなく、伝承の中心は漢族であることがわかる。

いっぽう『中華舞踏志　寧夏巻』によると、漢族は全ての市と県で獅子舞、高蹺、竹馬舞を伝承している。寧夏回族自治区においても『中国民族民間舞踏集成』と『中華舞踏志』の記述の違いは大きいので注意しておきたい。

甘粛省、青海省、寧夏回族自治区は、新疆ウイグル自治区と比べると伝承芸能数は少なく、雑技系芸能については数が少ないばかりでなく、演目も限られることがわかった。

⑷　検討結果

ここでこれまで検討してきたことをまとめておこう。

新疆ウイグル自治区において伝承される芸能は、甘粛省、青海省、寧夏回族自治区など隣接する省、自治区よりも圧倒的に多く、その中心はウイグル族である。伝承芸能は多種多様であり、他民族よりたいへん多い。これは今回取り上げた２冊の報告書の他省のものと比べれば、その違いはよりいっそう顕著となる。

新疆ウイグル自治区の中でも南疆とよばれるカシュガル地区とホータン地区では比較的おおくの芸能が保存継承されている。ウイグル族の伝承する芸能のうち、およそ１／５は雑技系芸能で、その割合は高い。また雑技系芸能の内容も仮装動物戯、頭上にものをのせて踊るもの、綱渡りの所作を行うものなど、他の民族より種類も豊富であった。

かつて筆者も参加したムカーム調査では、演奏の収録とともに楽器職人の調査も行われた。その結果、ウイグルでは市や県に何人もの楽器職人がおり、都市部にはたくさんの楽器店があった。トルファン（吐魯番）、コムル（哈密）、カシュガル（喀什）、ホータン（和田）、グルジャ（伊寧）などで楽器職人を訪れたが、店に並べられた楽器はウイグルの民族楽器ばかりであった。これは区府のウルムチでも同じ状況であった[7)]。

2013年８月、筆者は甘粛省や青海省、寧夏回族自治区における芸能文化の基盤を確認すべく楽器店および楽器職人の調査を行った。都市としては、甘粛省蘭州市、青海省西寧市、寧夏回族自治区銀川市が中心である。これらの都市はいずれも省府、区府でありながら、楽器店の数は少なく、ようやく楽器店を見つけてもそこで販売しているのはギターやピアノなどの西洋楽器がほとんどで、申し訳程度に二胡があるくらいであった。ウイグルの状況になれている筆者らにとって、そのあまりの違いは驚くべきもので、あらためてウイグルの芸能基盤の厚さを実感することになった。

おわりに

本稿は、『中国民族民間舞踏集成』と『中華舞踏志』に掲載される伝承芸能から、雑技系芸能を抽出して、芸能の演目と分布、民族ごとの伝承状況を調べてきた。ウイグルの子供は「しゃべり始めれば歌い、歩き始めれば踊る」といわれる。今回の検討によってその一端をうかがうことができたが、ウイグル族は雑技系芸能においても豊富な内容を持つことが明らかになった。

ただ今回は、データー分析を中心とした基礎作業であったので、論じ残したことは多い。例えば、ウイグル族だけなぜ雑技系芸能の数がおおく多種多様なのかは大きな問題である。漢族の雑技系芸能はもっぱら獅子舞と高蹺であることと比べると、その違いは大きい。ウイグル族

は保持する芸能数が多いから、それに比例して多いというだけでは説明しきれないであろう。また、同じトルコ系民族でイスラム教を信仰するウズベク族、カザフ族、キルギス族との違いも顕著である。この問題に対する検討も必要となろう。それとともに、旧ソ連のウズベキスタン、カザフスタン、キルギスにおける伝承状況や民族間の差異も比較したいところである。これらのことは次の課題としたい。

最後に本稿では、新疆ウイグル自治区で雑技系芸能の分布と特色を考察することの歴史的意義については全くふれていない。本稿をなす今一つの動機にわが国の雅楽との関連があった。これについては別稿で詳述することにしている。

謝辞

現地調査に際して、地元の方々との調整をはじめ多くの点で新疆ウイグル自治区文化庁にご高配をいただきました。董秋凡、顔鵬飛両氏にはガイドとしてお世話になりました。記して感謝申し上げます。

注

＊　本研究は、JSPS 科研費2530005の助成を受けたものです。

1）民俗芸能の定義については、いろいろと議論があるが、本稿では地域社会の中で民俗として継承されている芸能のことを指す。

2）鵜島2010。

3）舞と踊を区別する論考に、山路興造（1976）、板谷徹（1990、1991）などがある。本旨に直接関わる内容ではないのでここでは詳述しない。

4）《中華舞踏志》編輯委員会編2007、75～76頁。

5）日本では、平成元年から文化庁の国庫補助事業として都道府県が事業主体となり「民俗芸能緊急調査」が行われた。これは管内の民俗芸能の実態を把握することが目的で実施されたものである。まずは悉皆調査を行い、全体の状況を見極めてから対象を絞って詳細調査を実施する。悉皆調査は市町村に依頼し、地域ごとに芸能の有無をまとめたものが作成される。筆者は京都府でこの調査事業を担当したが、ポイントは市町村が実施する悉皆調査にあった。依頼を受けた市町村はさらに各自治会長などに照会をかけるが、地縁、血縁を活かしてつぶさに実態を把握するところもあれば、単に「該当なし」と回答してくるところもあった。

教育委員会の文化財部局に職員は少ない。担当職員がいても、調査に理解を示しどのような対応をとるかによって、調査の結果は大きくことなる。日本で起きたことがそのまま新疆ウイグル自治区で起きるわけではないが、２冊の報告書を作る際、どのような方法がとられたかは注意が必要である。

6）鷲尾惟子2010、2～3頁。

7）ウルムチには漢族の集住する地区があるが、そこは未調査である。楽器店があれば、店内に並ぶ楽器の構成は大きくことなるであろう。

参考文献

板谷徹1990「「舞う」こと、その世界」（網野善彦他編『大系音と映像と文字による日本歴史と芸能』1、平凡社）

――1991「「踊る」こと、その世界」（網野善彦他編『大系音と映像と文字による日本歴史と芸能』9、平凡社）

鵜島三壽2010「ウイグルの油灯舞 ── 大谷探検隊が見た「油皿踊」の追跡 ── 」『立命館文学』第619号、立命館人文学会

周吉2005『木卡姆』浙江人民出版社

《中華舞踏志》編輯委員会編2002『中華舞踏志・寧夏巻』学林出版社

――2007『中華舞踏志・新疆巻』学林出版社

中国地図出版社編著2008『新疆維吾爾自治区地図冊』中国地図出版社

中国民族民間舞踏集成編輯部編1995『中国民族民間舞踏集成　甘粛巻』中国 ISBN 中心出版

――1996『中国民族民間舞踏集成　寧夏巻』中国 ISBN 中心出版

――1998『中国民族民間舞踏集成　新疆巻』中国 ISBN 中心出版

――2001『中国民族民間舞踏集成　青海巻』中国 ISBN 中心出版

山路興造1976「舞と踊りの系譜 ── 舞踊史における女かぶき踊りの位置づけ」『芸能』18巻3号（のち「舞と踊りの系譜」と改題し、『近世芸能の胎動』2010、八木書店、所収）

鷲尾惟子2010「新疆・ウイグルの民間音楽と人々の意識の変容～ドラン・マシュラップを事例に」阿布都西庫尓・阿不都熱合曼編2010『シンポジウム：アジア音楽をもっと知ろう！ ── シルクロード音楽 ── 』金沢大学人間社会研究域

図版出典

図1　中国地図出版社編著2008、3～4頁より作図。

（うしま・みつひさ　英語国際学部教授）